

## 2. 30代夫婦の関係性と結婚幸福感

青葉学園短大 長津美代子

**目的** 結婚の幸福感は、結婚生活に対する評価を端的に表わした変数である。結婚に対する評価を、非常に不幸から非常に幸福までの9段階に分け、評価を弁別する要因はどこにあるかをさぐる。

**方法** 評価を弁別する要因として次の変数に着目する。①本人および配偶者の基本属性(職業・収入・学歴等)②結婚に至るまでの状況(交際期間、家庭環境や考え方・趣味などの一致状況)③日常生活における夫婦の関係性(夫婦の共同行動、共に過ごす時間、意見の食い違い、役割分担のあり方や努力関係)。分析の対象は、日本性教育協会と日本青少年研究所が行った『結婚をめぐる日米比較調査』から得られたもので、20~39歳の日本の既婚男女609名である。

**結果** ①男性では、結婚の際、一致度の高いことと同類婚的傾向が、現在の結婚幸福感と強く規定している。女性では、共同活動の規定力が大きい。②総収入が幸福感に及ぼす影響力は、男女ともに大きい。③女性の場合、収入獲得の役割が「もっぱら夫」に幸福感の高い者が多く、「夫婦同じ」では低い者が多くなる。女性の評価では、収入獲得への参加は、結婚生活に対する幸福感につながっていない。④夫婦の努力関係では、決定者が規範的に定められている領域から外れて妻の努力が強いと、幸福感は低くなる。

なお、非常に不幸から非常に幸福までの9段階を連続量としてとらえ、数量化工類による分析も行っているので、当日には、その結果もあわせて報告する。